

—未来を担う子どもたちのために—

こどもまんなかリーディングバンクに 採択されました



詳細はこちら

令和8年度「こどもとともに成長する企業」構想推進事業の取組支援事業者として、「こどもまんなかリーディングバンク」に採択されました。子会社である地域デザインラボさいたまとともに、地域企業のこども・子育て支援に関する取組みへの伴走支援や地域の支援団体との連携強化等を通じて、「こどもまんなか社会」の実現に向けた地域エコシステムの構築を推進していきます。



「こどもまんなかリーディングバンク」とは

こども家庭庁「こどもとともに成長する企業構想」において、「こどもまんなか」の取組みを先導・伴走支援する地域金融機関です



「こどもまんなか社会」を実現しよう

こどもや若者の視点に立ち、その最善の利益を第一に考え、すべてのこども・若者が健やかに成長できる社会の実現を目指します



埼玉りそな銀行 サステナBOOK2026

sustainable + action

サステナクション

Sustainaction!



埼玉りそなと
一緒に取り組み
ませんか？



わたしたちができる一歩から



埼玉県
SDGsパートナー

埼玉りそな銀行
RESONA

〒330-9088 埼玉県さいたま市浦和区常盤七丁目4番1号
TEL 048-824-2411(代)

▶埼玉りそな銀行のホームページもご覧ください 埼玉りそな銀行Q

<https://www.saitamaresona.co.jp/util/saitama/index.html>

発行/2026年10月 発行所: 株式会社埼玉りそな銀行



お客さまの声をぜひお聞かせください
本誌に関するアンケートを実施中です!



◀HP



埼玉りそな銀行

サステナクション

Sustainaction

sustainable + action

サステナブル アクション

環境・社会・経済の持続可能な発展を目指す
考え方や取り組みのこと

行動、活動、何かをすること

りそなグループのマテリアリティ(2026年5月公表)

詳しくはこちら



マテリアリティとは、**実現したい未来社会**のために必要なことは何か、私たちは何に優先して取り組むべきかをまとめたものです。私たちが**社会に対して特に注力する領域**を4つ、私たちが変わっていくべき**自社内の課題**を2つ掲げています。

本冊子では、私たちが社会に対して特に注力する4つのそれぞれの領域で私たちが地域の皆さまとともに取り組んでいる事例を紹介します。

自社が優先的に取り組むべき4つの領域

P4

将来世代
にわたる
豊かな
未来社会の実現

P7

少子高齢化
社会での
生活の安心、
豊かさの実現

P10

次世代
リテール金融の
創造

P11

産業成長による
地域社会の
発展・活性化

action!

とともに未来をつくろう

埼玉県
SDGsパートナーに
登録されています



平素より埼玉りそな銀行をご愛顧いただき、誠にありがとうございます。

埼玉りそな銀行は、「金融+で、未来をプラスに。」というグループパーパスのもと、「未来志向の道徳銀行への進化」を目指し、地域のこまりごとを起点に金融の枠にとどまらない様々な取り組みを進めています。

冒頭の「ともに未来をつくろう」は、お客さまや地域社会を取り巻く環境が大きく変化している中で、地元埼玉で暮らす誰もが「ワクワクする明るい未来」を実現するための合言葉です。

今回で2回目の発行となる本冊子では、当社役職員が日々地域の皆さまとともに取り組んでいる実際の事例をいくつかご紹介しています。多くの皆さまの実践の一助となれば幸いです。

活力があふれ、豊かで幸せに暮らせる持続可能な社会、次世代につなぐ社会を実現できるかは、私たち一人ひとりのこれからの行動にかかっています。

「地域から最も必要とされ、選ばれ続ける道徳銀行」として存在価値を高め、今後も皆さまと一緒に、地元埼玉のワクワクする明るい未来をつくっていききたいと考えています。

サステナクションを通じ、ともに未来をつくりましょう!

代表取締役副社長兼執行役員 CSuO*
毛塚 勝彦
※Chief Sustainability Officer



道徳経済合一の精神を受け継ぐ銀行

当社の源流の一つである黒須銀行は、庶民の貯蓄を資本に学校へ有利な利子をつけ利益から寄付も行い、世間より「道徳銀行」と呼ばれました。当社では、黒須銀行の創立15周年に渋沢栄一翁から贈られた扁額を本社応接室に掛けています。(写真は縮小版レプリカ)

将来世代にわたる 豊かな未来社会の実現

店舗等を活用した共創空間



人と地域をつなぎ、地域のプラスを広げる空間へ

店舗等の空きスペースを活用し、こども支援や地域貢献団体に無償でご利用いただく等、学校以外の多様な学び場・機会の提供を後押しするとともに、地域貢献につながる様々なイベントの企画・活動場所の確保をサポートしています。



詳しくは、
ミニディスクロージャー誌
「埼玉りそな銀行TODAY2026」
P.9をご覧ください

りそな YOUTH BASE 夏祭り

せんげん台支店3階の「りそな YOUTH BASE」では、2022年10月の開設以来毎年、夏祭りクリスマス会を行っています。これは、普段居場所としてYOUTH BASEを利用しているこどもたちに、体験の機会を提供したいとの考えで、こども支援団体と銀行が協力して行っているものです。2026年8月に実施した夏祭りでは、こどもたちが浴衣を着てスーパーボールすくいや射的等を楽しみました。さらには取引先の従業員の方による生歌ライブも行われ、素敵な夏の思い出となりました。



action
POINT



YOUTH BASEで出会うこどもたちの笑顔が、大人にとって励みになっています。学習支援やイベント等、一度参加してみませんか？

共創人財トレーニー

実際に現場で体験することで、 自分たちにできることを考える

最初に誕生した共創空間「りそな YOUTH BASE」(せんげん台支店3階)をご利用いただいている「認定NPO法人埼玉フードパントリーネットワーク」(以降、SFPN)に、当社従業員が出向しています。

SFPN
とは？

県内72団体のフードパントリーを取りまとめるネットワーク。様々な企業等から寄贈いただく食料品等を各地のフードパントリーに配分し、日々の食材を必要とされているご家庭へ届けるために活動しています。

ボランティアで成り立っている各地フードパントリーをネットワーク化できているのは全国的にも珍しく、理事長が他県に講演に行くこともあります



SFPNのHP

comment

共創人財トレーニー6期生・井上侑莉 (2026年4月～9月出向)

私は事務局に所属し、SFPNの運営に関わる業務や、各地のフードパントリーの活動支援を行っています。活動を通じて、食品の受け入れ・配送等の物流面だけでなく、寄付や領収書の管理、**企業との連携等、様々な人の支えによってフードパントリーの活動が成り立っている**ことを知りました。実際に現場へ足を運び地域の方と一緒に活動することで、これまで銀行業務の中だけでは見えていなかった地域の課題やそれぞれの想いを知ることができました。また、SFPNの活動だけでなく、こども食堂や地域福祉に関する活動等、様々な現場を経験する中で、「銀行だからできること」に加えて「銀行だからこそつなげられること」もあるのではないかと考えるようになりました。今後も、現場で得た気づきを自分の仕事に持ち帰り、**地域・企業・団体等、様々な人をつなぐことで、新しい共創につなげていきたい**です。



action
POINT



共創人財トレーニーと一緒に、まずは一日、実際にフードパントリー等の活動に参加してみませんか？



フードドライブ等寄贈活動

地域で困っている方に、私たちができることは何か

各支店で、地域で支援を行う団体の方や市町村の社会福祉協議会等とつながり、その地域で必要とされている食料品や本、衣類等を従業員が持ち寄り、寄贈を行っています。地域の企業や個人のお客さまと一緒に寄贈を実施するケースも増えており、さらには地域の企業のご協力によって成立した寄贈活動にもつながっています。

県内フードパントリーへのうどん提供プロジェクト

生麺や中華総菜の製造販売業を営む株式会社菅野製麺所が、餃子を製造する過程で発生する皮の切れ端を有効活用することをお考えになり、そうしてできた冷凍うどんを地域で必要としている方へ無償提供したいのご相談を当社にいただきました。県内各地のフードパントリーに届けることができないかと、共創人財トレーニーがSFPNに相談したところ、**県内7つの中間拠点までの運送に課題がある**ことがわかりました。そこで、当社各支店で運送を担ってくださる企業を募りました。アサヒロジスティクス株式会社、株式会社ファイブスターロジより運送のご協力を得てプロジェクトが実現し、各地で約2か月ごとに開催されるフードパントリーにて美味しいうどんが配布できる予定です。うどんと一緒にフードパントリーで配布いただくため、当社本部従業員からも、うどんとともに食べて栄養になるような「うどんのお供」を持ち寄りご提供しました。



action
POINT

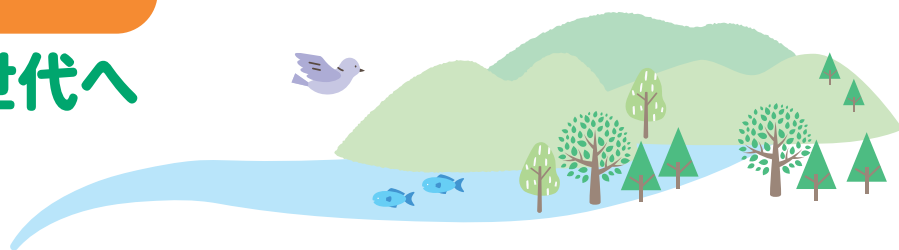


企業や団体の皆さま、それぞれの強みを活かしご協力いただくことで実現した事例です。皆さまと一緒に地域の課題解決に取り組みませんか？

環境保全活動

豊かな自然を次世代へ

埼玉の豊かな自然を守るため、
私たちにできることは何でしょうか？
活動事例をご紹介します。



地元埼玉の 自然環境を守り次世代へ

長瀬町宝登山頂近くに「埼玉りそなの森」があります。2010年より植樹や草刈りを行い、年月をかけてみどりを守り育てています。2026年5月には、長瀬町の観光名所「岩畳」を守り次世代へつなぐため「岩畳リフレッシュ大作戦」に役職員11名が参加しました。自治体や地域団体、企業等26団体180人が集まり、一緒に雑草の除去やゴミ拾いを実施する中で、**共同で地域の価値を守る機会を再認識**する機会となりました。



埼玉の魚 「ムサシトミヨ」を未来へ

ネイチャーポジティブの実現に向けて、埼玉県、地元自治会、熊谷市ムサシトミヨをまもる会、日本生命、損保ジャパン、立正大学と連携し、埼玉県・熊谷市の魚である「ムサシトミヨ」の保全活動を実施しています。ムサシトミヨは、武蔵地域のきれいで冷たい湧水にしか生息できない希少な淡水魚で、埼玉県の天然記念物に指定されている熊谷市の元荒川上流部周辺にのみ、世界で唯一生息しています。毎月、草刈りやゴミ拾い等、地域住民や企業、行政が一体となって汗を流し、地道に**生物多様性保全に取り組ん**でいます。



action
POINT



環境保全活動に参加する中で、自然を守り育てていくためには、多くの方の力が欠かせないことを実感しています。ぜひ皆さまも一緒に取り組んでみませんか？

マテリアリティ

少子高齢化社会での生活の安心、豊かさの実現

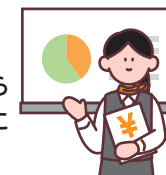
全世代向け金融教育

累計
7.7万人超
※2022年度～2025年度



それぞれの年代で 必要なお金の知識を身に付け、 より豊かに暮らす

生きていくうえでお金のことは避けては通れません。こどもから大人まで、それぞれの年代に合わせて必要なお金の知識を身に付けることができるよう、金融教育を実施しています。



幅広くご提供しています

- 学生:夏休みにゲームやクイズを通じて、授業や講義の中で
- 大人:市民向けや企業従業員向け等、ご関心に合わせて

ポートフォリオゲームを通じて、 楽しみながら「お金」と「将来」を考える

2026年7月、さいたま市立浦和中学校の中学2・3年生45名を対象に、出張授業を実施しました(同校での授業は今年で3回目、夏休み中のカリキュラムの一環として実施)。前半は、「ライフプラン・収支管理」「資産運用」をテーマに、将来の生活に必要なお金や、お金を計画的に管理することの大切さについての講義。後半には、チーム対抗の「ポートフォリオゲーム」を実施。チームメンバーそれぞれが知恵を出し合い、与えられた課題や条件に合わせて、どのような資産の組み合わせがよいかを考えました。生徒たちは積極的に意見を交わしながらポートフォリオを組み立て、ゲームは大いに盛り上がりしました。授業後には、「とても楽しかった」「将来は、今回学んだことを生かして自分なりのポートフォリオを組んでいきたい」といった声が寄せられました。授業を通じて、金融に関する知識だけでなく、自分の**将来を考え、その実現に向けてお金とどう付き合っていくかを考えるきっかけ**を提供することができました。



action
POINT

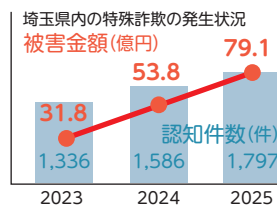


安心で豊かな未来を実現するため、金融のプロからお金の話を聞いてみませんか？

金融犯罪被害防止

最新の情報を知り、金融犯罪被害から身を守る

全国的に特殊詐欺の被害が多く発生している中、当社ではお客さまのご理解・ご協力を賜りながら一定の被害抑止につなげることができています。今後も、埼玉県警や地域団体とのセミナーの共同開催や最新の詐欺手口の相互連携等、巧妙化する特殊詐欺の抑制に向けて対応していきます。



高校生、夏休み前に 闇バイトの危険性を学ぶ

2026年7月、埼玉県警と、求人サイト「バイトル」を運営するディップ株式会社と連携し、私立埼玉平成高等学校(毛呂山町)にて金融教育授業を実施しました。全生徒約800人が、闇バイトの危険性や見極め方、口座の売買の危険性等について学び、生徒からは「就職活動やアルバイト応募の際は、情報に惑わされず、会社のことをしっかり調べて判断したい」との声が聞かれました。



シニア輪投げ大会に集まる 皆さまにお声がけ

2026年6月、吉見町中央公民館主催のシニア輪投げ大会が開催され、町内在住の60歳以上の方が約200人集まりました。東松山支店からブースを出展。大会でのご自身の出番が来るまでの待ち時間に、金融犯罪被害にあわないように注意喚起のお声がけを実施しました。



action
POINT



増加する金融犯罪から資産を守るため、最新の情報を聞いてみませんか？



埼玉県警察HP

詐欺の手口
詳細はこちら

共生社会の実現に向けて

「暮らしの安心」の実現を目指して

誰もが安心してその人らしく暮らすことのできる社会を実現するには、それぞれの立場を知ることや、地域の人々が協力することが必要と考え、取組みを行っています。

従業員向け「認知症とともに歩むための手引き」を制定 (2026年3月)

埼玉県の推計では2025年時点で
65歳以上の約5人に1人が認知症



当社従業員は、認知症のある方が抱えるこまりごとや言動の背景を理解した上で接遇や対応につなげるためのヒントをまとめた手引きを使い理解を深めています。手引きの制作にあたっては、書籍「認知症世界の歩き方」の発行元であるissue+design*のご協力を得て、認知症のある方ご本人の視点に立った内容としています。



※詳細はこちら

action
POINT



私たちが暮らす社会への理解を深め、一緒に「暮らしの安心」実現を目指しませんか？



column

株式会社コマームと 「彩の国こどもまんなか共創包括連携協定」 を締結 (2026年3月)

埼玉県を中心に30年以上にわたり放課後児童クラブや児童館、保育施設、子育て支援センター等、幅広いこども支援事業を展開している株式会社コマームの知見と埼玉りそな銀行が有する地域ネットワークや地域共創の取組みを組み合わせ、埼玉県の未来を担うこどものための施策を共同で進めていこうとするものです。



株式会社コマームが運営する児童館での金融教育の様子



詳細はこちら



金融の力で地域のこまりごと解決の一助に

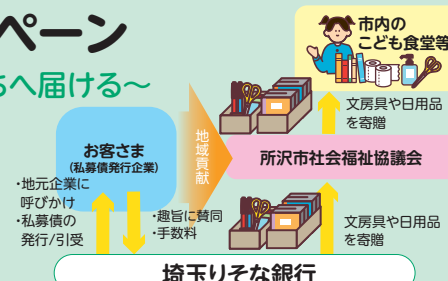
金融商品・サービスを通じて貢献する仕組みづくり

埼玉りそな寄贈型CSR私募債(地域活性化コース)では、法人のお客さまの資金調達手段の一つである私募債を通じて、いただいたお手数料の一部を地域のこまりごと解決に資する資金として寄付することを可能にしています。また、金融商品・サービスを通じて、お客さまのご選択により、様々な課題解決のために設置されている県関連基金等に寄付することができる仕組みを複数ご用意しています。

所沢支店開設130周年私募債キャンペーン

～お客さまのご賛同をいただき、支援を必要とするこどもたちへ届ける～

所沢支店では、支店開設130周年を契機に寄贈型私募債キャンペーンを展開しました。市内を拠点とする企業19社にご賛同いただき、私募債発行額は計16億円に到達。文房具や日用品を購入し、所沢市社会福祉協議会へ寄贈しました。寄贈額は328万円相当となり、社協に年間で集まる寄付金額の約半分を占める規模となりました。文房具や日用品は、市内のこども食堂等を通じて、支援が必要なこどもたち約500名にお届けいただいています。



お客さまのご選択に応じ、県関連基金等へ当社が寄付

個人のお客さま

無通帳口座をご選択	住宅ローン電子契約・ 住宅ローン返済予定表電子化	投資信託・りそなファンドラップ 報告書類電子交付サービスご利用	eL-QRコードにてご納税
1口座当たり10円相当の物品を 埼玉県を通じて寄贈※1	それぞれ1件につき100円を 「彩の国みどりの基金」へ寄付	1件につき100円を 県の緑関連基金へ寄付※2	1件につき10円を 県の緑関連基金へ寄付※2

※1) 第1回は県内のフードパントリーや子ども食堂等にお米を寄贈、第2回は県内の乳児院にベビー用品を寄贈予定 ※2) 寄付先は「彩の国みどりの基金」「さいたま緑のトラスト基金」

※1) 第1回は県内のフードパントリーやこども食堂等にお米を寄贈、第2回は県内の乳児院にベビー用品を寄贈予定 ※2) 寄付先は「彩の国みどりの基金」「さいたま緑のトラスト基金」

個人・法人共通

定期預金預入時に、道徳銀行預金をご選択 残高に応じて「埼玉県こども食堂・未来応援基金」へ寄付	お借入時、道徳銀行ファンドをご選択 お借入金額に応じて対象基金等※3の中からお客さまの選択した基金等へ寄付
---	--

法人のお客さま

※3)対象基金等一覧(2026年10月現在)「彩の国みどりの基金」
「さいたま緑のトラスト基金」|埼玉県こども食堂・未来応援基金|
埼玉グローバル人材活躍基金|「スポーツ埼玉みらい資金」

♥ 寄付に伴うお客さまのご負担はありません

2026年9月末現在の取組みを掲載しています。最新の状況は店頭にてご確認ください。

action
POINT



いつものお取引を通じて、地域のこまりごとに役立ちませんか？

産業成長による 地域社会の発展・活性化



未利用資源の活用

捨てられていたものから価値を生み出し、 地元埼玉らしい商品へ

従来の「大量に作って、使って、捨てる」リニアエコノミーから、サーキュラーエコノミーへ移行することは、環境と経済が両立する持続可能な社会の実現のために重要です。地域の未利用資源を活かすことができれば、地域活性化にもつながります。

深谷ねぎの廃棄部分からプラスチックを生成、リバーシ(オセロ)に

取引先の、食品残渣の未活用や原料ペレットの県外製造という課題を起点に、埼玉工業大学との産学連携につなげ、深谷ねぎの残渣を原料としたバイオマスプラスチック製品「深谷ねぎりバーシ」の開発が実現しました。本事例はメディアでも取り上げられ、反響を呼びました。

さらには越生町の梅産業で廃棄されている剪定枝を活用した活性炭、種を活用した食器製造へと展開。補助金やサーキュラーエコノミーセンターのお力をお借りしながら、地域資源を活かしたサーキュラーエコノミーの実装を後押しし、県内で原料製造から製品化までを目指す基盤づくりに伴走した。

出荷時切り落とされる
緑の部分は年間約6300トン
畑の隅に捨てたり
肥料としていたが、
臭いがあり課題だった



画像出典:埼玉工業大学ホームページ<https://dep.sit.ac.jp/lsgc/news/20251129a/>

action
POINT



未利用資源を活かして新たなビジネスにつなげられないか、一緒に考えてみませんか？